

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施) 参考	総合評価 (3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎的・基本的な知識と技能の習得を図るために教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事の活性化や外部教育力の導入、単位の互換性を利用した幅の広い学習方法を検討し主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①確かな学力の定着と系統立てた系列科目の精選の観点から編成された教育課程に基づき、生徒の学習意欲を喚起させ、組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>①学校必修科目等における定期テストの共通化を図る。授業改善の手立てとして全生徒が集中して授業に臨む時間を設定し、学習意欲の向上を図る。</p>	<p>①学校必修科目等の定期テストの共通化は図られたか。集中して授業に臨む時間の設定により生徒の学習意欲が向上し、単位未修得者を減少させることができたか。</p>	<p>○学校必修科目等の定期テストの共通化については、国語、数学、理科、保健、英語、家庭、情報で実施した。社会では世界史Aで実施し、日本史A、現代社会は実施に向け検討をすすめた。(試験問題の70%以上で「共通」とした)</p> <p>○生徒の学習意欲を喚起させるため、集中して授業に臨む時間を設定し、すべての教員で実践した。また、年度末で単位未修得者延べ数を昨年比64%減(20人以下)、前期で50%減を目標とし、達成するための方策を授業力向上研修等で検討した。その結果、年度末で昨年比43%減(56人→32人)にとどまり、目標には届かなかった。</p>	<p>○より適切で信頼される評価を目指し、学校必修科目等の定期テストの共通化を組織的に研究し、指導と評価の改善を一体としてすすめる。</p> <p>○年次進行型の完成に向け、授業力向上研修等を引き続き実施し、単位未修得の要因を分析し、具体的な方策を全職員で粘り強く実践していく。</p> <p>○授業の質と量の確保に向け、1単位あたり35週分の授業数を確保できるよう平成30年度の年間授業計画を決定した。課題を確認し、次年度により確実に実施できるよう計画の改善を行う。</p>	<p>○単位未修得者の減少のため、短時間でも集中させる試みを行っていることは良いが、未修得者延べ人数の目標値との乖離が大きい。取組を共有し、集中を継続させることへの発展を期待する。</p> <p>○学校必修科目のテストの共通化が順調に進んでいるが、共通化によりその後の指導・評価の改善につながっていないのではないか。</p> <p>○生徒の基礎学力の向上と学習意欲の喚起のために、年次進行型に変える等の取組をしていることは良いと思う。生徒が力をつける魅力的な授業をさらに展開してほしい。</p> <p>○1単位あたり35週分の授業数の確保が大きな課題となっているが、同時にその中身が、集中により短時間であっても効率的なものになってほしい。</p>	<p>○共通科目の定期テストの共通化については、教科内の研究がすすみ、一定の成果が得られた。</p> <p>○年次進行型総合学科として、学務上の大きな課題である単位未修得者の減少について、全職員で組織的に取り組むことができた。</p> <p>○授業時間の確保について、行事等の精選や効率的な成績処理日程等を検討し、H30年度の年間計画を決定することができた。</p>	<p>○定期テストの共通化の成果を検証するとともに、他教科の取組を研修等で共有し、組織的な授業改善に継続して取り組む必要がある。</p> <p>○1, 2年次が、年次進行型の教育課程となり、旧課程の生徒との学務上の課題を解決するとともに、単位未修得者の減少について、研修を通じ、職員の取組を加速させる必要がある。</p> <p>○平成30年度の年間授業計画の課題を整理し、計画の改善を行う。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①校内のルールを遵守させることで授業に集中させ規範意識を身につけさせる。</p> <p>②部活動加入率を上げる工夫を行い責任感や連帯感の涵養を図る。</p>	<p>①規範意識の涵養を図るため指導体制を組織的に構築し、一丸となって指導にあたる。</p>	<p>①全ての教員が生徒の規範意識の向上を目指すとともに、校内のルールの見直しを行い、よりよい学習環境を整備する。</p>	<p>①日常の授業不要物指導、頭髪服装指導に加え、キャリア教育の一環として公式行事等における服装指導を充実させ、その結果、生徒の規範意識の向上やキャリア教育に有効であったか。</p>	<p>○授業不要物指導は、昨年と比較し、減少傾向(65件→50件)で、特別指導件数も、減少(62件→38件)した。</p> <p>○始業式、卒業式、全校集会等において、服装・頭髪指導を丁寧に実施した結果、指導件数が大幅に減少した。(頭髪141件→59件、服装22件→5件)</p> <p>○生徒が目的意識をもって授業に臨めるよう、履修指導の充実と効果的な時間割編成をすすめた。生徒の規範意識を向上させる指導を進めた結果、3年次の進路準備を除く進路未決定者は24名(10%)となった。</p>	<p>○規範意識を高める指導をキャリア教育の一環として継続して実践した結果、進路未決定者の割合が昨年に引き続き10%台となった。キャリア教育と関連させる指導を引き続きすすめる必要がある。また、経験の浅い職員が多いことから、研修等を通じ、指導基準の共通理解を深め、職員が一丸となって指導できる体制を構築する。</p> <p>○平成30年度より、昼休みの外出を禁止することを決定した。生徒への周知を徹底し、課題を把握しながら、実施をすすめていく。</p>	<p>○教職員の熱心な指導と組織的な対応により、学校は落ち着いた印象を持っている。卒業式の様子はとても良かったと感じた。</p> <p>○日常生活指導は、先生方個々が意識して学校全体で行っている様子が見える。</p> <p>○粘り強い指導の継続以外に近道はなく、数年後には生徒も自信と誇りを持ち始めれば、今の努力が過去のものとなる。</p> <p>○粘り強く指導を継続した結果、着実に改善されている。生徒が自信と誇りを持てるようになれば意識はボトムアップされ自主性も期待できる。</p> <p>○年々、街で見かける生徒の規範意識は向上している。バス、自転車のマナーの指導を継続したい。</p>	<p>○頭髪服装指導、授業不要物の指導等、粘り強い指導により、学校が落ち着いた印象があり、指導方法に工夫し、職員一丸となって指導を継続する。</p> <p>○昼休みの外出についての課題を整理し、来年度からの外出禁止を決定することができた。</p>	<p>○規範意識を高める指導を継続する必要がある。職員間の指導基準の共通理解を深めるとともに、様々な機会を通じ、保護者への丁寧な説明を行っていく。</p> <p>○昼休みの外出禁止について、円滑に実施する体制を構築する必要がある。</p>
3 進路指導・支援	<p>①ガイダンス科目の内容の見直しを行い生徒自らの意識の変容を図る。</p>	<p>①適切な職業観や勤労観を育成し、また社会人として適応できる能力を育成する。</p>	<p>①希望進路につながる履修指導やガイダンスを充実させるとともに、積極的に</p>	<p>①適切な履修指導により、生徒が希望進路に応じた系列科目を選択でき、系列</p>	<p>○学務G・キャリア支援Gが共同し、希望進路に応じた系統立てた履修指導を新たに計画し実施した。</p> <p>○職員の研修を充実させ、希望進路と明確に関連させた履修指導を質・量とも充</p>	<p>○引き続きホトティーチャーを活用し、就職希望者に対する丁寧な指導を継続する。</p> <p>○進学希望者に対しては、生徒が主体的に希望進路を選び、目標に向け</p>	<p>○年次進行型の過渡期であり、手厚いフォローが必要である。希望進路に合った履修指導のため、職員にも内容等を深く学んでもらうことは指導の質の向上になる。</p> <p>○大学進学者が大幅に増加していることは喜ばしい一面と同時に、</p>	<p>○学務G・キャリア支援Gの連携により、希望進路に応じた系統立てた履修指導を計画するとともに、職員研修を充実させ、きめ細かな履修指導を実施することができ</p>	<p>○課題研究発表会や未来探索発表会では、生徒のプレゼンテーション能力が向上し、学校評議員の方々からも高い評価を得</p>

		り進路未決定者を減らす取り組みを行う。 ②キャリアカウンセリングの研修を行い教員が適切な支援を行えるようにする。	力の育成に努める。	社会に関わろうとする能力の育成を行い、進路未決定者を減少させる。	科目（発展科目）の履修と進路が結びついたか。自ら選択し進学、就職活動を行う生徒が増加し、進路未決定者が減少したか。	実させ実施した。 ○サポートティーチャーを活用し、生徒一人ひとりの勤労観を高める指導をきめ細かく行うことで、就職希望生徒33人全員の内定が決定した。 ○大学・短大 85名、専門学校 86名、進路準備を除く進路未決定者は24名で、大学・短大進学者が大きく増大した。進路未決定者は10%（前年3.4%）となりやや増加したが、最近3年間は低い水準となっている。	努力を継続できるよう指導することで、進路未決定者を減少させるよう支援する。 ○1、2年次生については、履修指導資料を充実させ、ガイダンスの時間を十分確保し、系統立てた履修により進路に結びつくよう指導する。	推薦やAOでの進学が大半という現状を見ると、安易な選択になっていないか懸念される。 ○本校の生徒（中学生）にとって夢の実現となるために、行きたい学校であってほしい。 ○課題研究の発展は生徒一人ひとりに深くものを考えさせる良い契機になっていると思う。	た。 ○サポートティーチャーを活用し、就職希望生徒全員が内定を得ることができた。 ○進路未決定者は前年に比較するとやや増加したが、低い水準を維持することができた。	た。今後は、発表生徒だけでなく、全体の研究の内容の向上を目指し、丁寧な指導を継続する。 ○継続してサポートティーチャーを活用し、就職活動に取り組む生徒を支援し、進路未決定者をさらに減少させる。 ○系統立てた履修指導を継続し、希望進路の実現とともに、単位未修得者の減少にもつなげる必要がある。
4	地域等との協働	①近隣の小・中学校との交流を図り、地域での協働を推進し、信頼される学校づくりを進める。	①近隣の施設や小・中学校と生徒が交流することや、また地域での協働を通して自己有用感を育む。	①近隣の施設や小学校・中学校等と、ボランティアや様々な体験活動を通じて支援・交流を行う。PTAと協働で実施する生徒発表行事を、地域連携の場として充実させる。地域の職業技術校、専門学校との連携事業を行い、生徒のキャリア教育の充実を図る。	①近隣施設、地域等との交流・連携が深まり、内容や回数は充実したものであったか。	○平安小に多文化交流ボランティアとして、3年次生徒が定期的に参加した。平安小の防災訓練に、本校職員・生徒が参加し連携を深めた。 ○YMCA 保育園の運動会、クリスマス会に本校生徒がボランティアとして参加した。また、系列科目「幼児教育音楽」でYMCA 保育園との連携を初めて実施した。 ○東部職業技術校、横浜ファッションデザイン専門学校と連携し本校独自のインターンシップを実施した。 ○PTAと協働で実施するクリスマスミニコンサートを地域にも公開して実施した。 ○和太鼓部が鶴見区周年行事等に積極的に参加した。 ○潮田中学校への職員訪問を実施した。	○平安小、潮田中、YMCA 保育園等の近隣教育施設等とのボランティア、体験活動等を充実させることができた。 ○平成30年度から学校運営協議会の設置が予定されていることから、これまでの取組を地域連携部会の活動として整理し、さらに充実・発展させ、生徒が自己有用感を高められるよう指導していく。 ○PTA 活動の活性化を通じ、保護者と協働していく取組が評価されH30年度の県代表として高P 連関東大会（栃木）、全国大会（佐賀）の発表表に選出された。	○地域連携の広がりとともに、保護者との協働が非常に良い形で生まれていることを実感する。高P連の全国大会への出場など外部からも高い評価をもらっている取組を今後もすすめてほしい。 ○中学校としても交流をお願いしたいと考えている。特に和太鼓部の地域等での活動はすばらしいと感じている。 ○ボランティアの生徒にはお世話になっている。子どもにとってはとてもありがたい待ち遠しい時間となっている。	○近隣小学校への学習支援ボランティア参加、近隣中学校への職員の研修参加、近隣保育園との行事交流などを実施することができた。 ○昨年度から始まったPTA主催でクリスマスコンサート、獅子舞などを地域と連携しながらすすめることができた。 ○近隣保育園と新たに授業での連携を行うことができた。 ○県全体のインターンシップの取組に加え、本校独自のインターンシップを実施することができた。	○学校運営協議会の設置により、地域連携部会にこれまでの取組を整理する。 ○地域連携・交流行事等を改善、発展させ、生徒が地域の一員である意識、自己有用感をさらに高めていく。 ○県代表として参加する高P 連関東大会、全国大会の発表に向け、学校として支援していく。
5	学校管理 学校運営	①教職員の資質の向上を図る取り組みを行い、課題解決に向けて組織として対応する仕組みを構築する。	①教職員の資質の向上を図る研修を定期的に行う。	①人材育成を図る適切なグループ編成により、効率的な業務遂行を図る。全体研修と対象職員を明確にした研修をバランス良く組合せ、教職員の資質向上につながる工夫を行う。	①ネットワーク管理や私費会計業務をチームで行い、効率的な業務遂行の成果があったか。職員研修の充実により、生徒に成果を還元できたか。	○ネットワーク管理、私費会計業務をチームで実施し効率的な業務を行った。 ○職員全体を対象とした研修として、事故防止研修、AED研修、外国人の人権に関する研修、高大接続システム研修を実施した。また、生徒指導の在り方を考える研修、単位未修得者を減少させる目的で行った授業力向上研修では、グループや教科等、対象職員を工夫して実施した。 ○ネット研修を推奨し、教員の資質・能力の向上を図った。	○より効果的な構成員による討論・協議を中心とした研修をさらに充実させ、生徒に成果を還元できるよう日々の教育活動に取り組む。 ○新しい課題として教員の働き方改革に取り組む。定時退勤日の設定等を実施した。効率的な業務改善とともに取組を一層すすめる必要がある。	○働き方改革への取組をいち早く始めている。生徒へのサービスを低下させることなく教員の業務軽減の実現に向けて、今後も積極的に取り組んでいきたい。 ○教職員の資質向上のため、校内のOJTも含めて、研修は大切にしなければならないと感じている。 ○一般教員の交流の一環として、出前授業等による研修の実施も検討してほしい。	○信頼される学校づくりのため、ネットワーク管理、私費会計業務等、効率的な業務遂行を実施することができた。 ○サーバー上での研修により、研修を効率化するとともに、全体のみでなく、職員個々の必要に応じた研修を計画的に実施することができた。 ○研修の充実による生徒への成果還元についての検証は十分ではなく課題がある。	○専門性が必要となる業務において、人材育成を図る取組を継続する必要がある。 ○より効果的な構成員による研修をさらに充実させ、生徒に成果を還元する。 ○教員の働き方改革の課題を整理し、取組をすすめる。